

お腹を満たすだけでなく、心を満たす

# 時間をかけん

## 牛歩のごとく、 答えを急がない生き方

**効** 率やスピードが求められる時代にあつて、うしぼくが大切にしているのは、牛たちがゆつくりと成長していく時間です。小ぶりの雌の子牛を迎え入れ、無理に大きく育てようとはせず、出荷の時期も急がない。通常より二ヶ月ほど長く、牛の歩みに寄り添いながら見守ります。その「遅さ」こそが、脂のきめ細やかさや、奥行きのある味わいを生み出す可能性につながる。うしぼくは考えています。非合理に見える選択の先にこそ、嬉しいご褒美があるのかもしれない。結果を急がず、時間を味方につけながら育てていくといううしぼくの姿勢は、複雑化し日々変化する今の社会において注目されているネガティブ・ケイパビリティ、「答えを急がず、曖昧な状態に耐える力」という考え方も重なるのではないかと。答えを急ぐ時代に「牛歩」という価値がもたらすものは何か。効率だけでは図れない日々の時間との向き合い方を考えるためのヒントを探しに、須摩寺の副住職・小池陽人さん（以下、陽人さん）を訪ねました。

### 02 一次産業はネガティブ・ケイパビリティの実践の場

2025年から、より神戸で愛される地域ならではの肉質を追求し、育てている4,000頭近くの牛のほとんどを雌牛に切り替えたうしぼく。大きな覚悟と挑戦です。和牛の世界では一般的に去勢牛（雄牛）のほうが大きく育ちやすく、重量も出るため、収益効率の面では有利とされています。それでも、あえて小ぶりの雌牛を迎え入れ、無理に大きく育てることはせず、出荷の時期も急がない。牛のペースに合わせて、時間をかけて見守ります。しかし、牛を育てるといふ営みは、人の都合だけでは前に進みません。天候、土地、環境、体調、どれかが絡み合い、簡単には制御できない。そんな一次産業のあり方こそが、ネガティブ・ケイパビリティの実践の場という。陽人さん。頭でっかちにも考えても状況はコントロールできない。牛たちは毎日起きて餌を食べて糞尿をする。時には病気ににもかかてしまふ。とにかく毎日牛と向き合い、働き続けたい。これには、何も始まらないのです。肥育という一次産業を担ううしぼくはすでに、ネガティブ・ケイパビリティと向き合う只中にいるのではないかと、思つてもいなかた視点を見せられました。

### 03 見極める力は、待つことで育つ

この日、陽人さんが繰り返し語ってくれたのは、待つことや見極めることが、決して受け身の姿勢ではないということでした。法隆寺建立の際に活躍した長い経験と技術を共有した大工たちの話を例に挙げます。「法隆寺の五重塔を建てた建物は、実はそんなに長い木を持たない。まっすぐで均一な木材だけを選ぶのではなく、癖のある木を組み合わせることによって、千年以上の時を超えて立ち続けてきました。癖を排除するのではなく、見極め、活かして合う。そのためには、時間をかけて向き合い続ける必要がある。うしぼくでは地域にすでにあるものと向き合いながら、飼料米や稲わらなどの地元飼料を取り入れてきました。海外からの安価で均一な飼料を大量に仕入れたほうが効率は良い。地域飼料は育てる人もバラバラ、形も不揃い、仕入れる時期もコントロールしづらい。だから牛飼いの手間もぐんとかかります。そんな地域飼料が牛にもたらす影響は、すぐに表れるものではありません。だからこそ、そもそも思い通りにいかないものだと受けとめ、急がずに経過を見続けていく。時間はかかりますが、地域の資源を使うこの取り

### 01 思い通りにならないときは、身体を動かす

ネガティブ・ケイパビリティと仏教が重なり合う点について、陽人さんはこう語ります。「分からないことがある、という状態を不幸だと思つてしまふのが、今の時代なんです。すぐに結論を出し、白黒をつける。分からない状態を、できるだけ早く終わらせようとする。けれど仏教は、その逆の態度を示してきたといえます。『分かつたと思つて、思考は止まってしまう。でも、分からないままに留まることで、また次の問いが生まれてくる』。そうした考え方を象徴するものとして、陽人さんが挙げた仏教で大切にされている言葉「一切皆苦（いっさいがいく）。思い通りにならないことを失敗として切り捨てるのではなく、自然な状態として引き受ける。そもそも全ては思い通りにならない、という前提に立つ。同じ言葉を持たない牛の気持ちも完全に汲み取ることは到底難しいことなのです。感情でどうにかしようとしても、うまくいかないことが多いです。考えすぎると感情は膨らんで身動きが取れなくなる。そんなときは、手と足を動かしてみればいいんです。目の前の問題だけを見つめ続けていると、視野は狭くなってしまふ。だからこそ、問題が起きている場所とは違うところに身を置き、異なる価値観に出会うこと。一つの出来事を、少し離れたところから見つめる時間を持つことが、心をほどき、思いがけず状況を動かしてくれることもあるのだといふ。

組みは、人と牛、そして土地が支え合いながら、強く、長く、続いていく豊かさとながついていくのかもしれない。

須摩寺を後にする。又、来たときよりもぐっと表情が柔らいだように見えたうしぼく社長の洋三さん。

牛歩のように、ゆつくりと、それでも確かに前へ進んでいる。そんな手応えを陽人さんからもつた時間でした。



#### PROFILE

こいげ ようじん  
小池陽人さん  
須摩寺副住職小池陽人さん（左）と  
うしぼく社長の池内洋三さん（右）

大本山須摩寺副住職。太陽のようにあたたかな笑顔と、相手に真摯に寄り添う姿勢が印象的。お寺を通して、地域や人とのつながりを育んできた。音楽を取り入れた催しなどを通して、幅広い世代が仏教と出会う場をつくっている。YouTube「小池陽人の随想録」では、仏教の言葉を現代の暮らしに重ねて発信中。



# み

神戸から、牛とある暮らし。

牛歩のごとく、  
ゆつくり歩く、  
そしておいしく

牛  
vol.  
20

うしぼく  
Kobe Ushi Farm  
since 1968

答えを急ぐ時代に、あえて牛歩の価値を。  
ゆつくり育つ雌牛と一緒に考える、  
時間との向き合い方のヒント。

創業58年。うしぼくの牛の飼育方法や経営決定は、牛歩のように一歩ずつ進めながら、その選択肢を広げてきました。今号では、ゆつくり進むことでしか育めない“おいしい”と“時間の価値”を探っていきます。雌牛と向き合う料理人の技や雌牛のチャームポイント特徴を紹介する漫画も一緒に。



うしぼくの最新情報は  
HP・SNSでも更新中!

HP <https://www.kobe-ushi.jp/>  
Instagram <https://www.instagram.com/ushiboku/>  
Facebook <https://www.facebook.com/ushiboku/>

## SHOP DATA

うしぼくの直営精肉店

- マルシェ 六甲店**  
〒651-2235 神戸市西区榎谷町長谷334-1  
営業時間:9:30~18:00 定休日:なし(年始は除く)  
駐車場:66台(JA兵庫六甲榎谷支店含む)  
TEL:078-990-4129 <https://www.kobe-ushi.jp/shop/marche>
- マチマルシェ 御影店**  
〒658-0048 神戸市東灘区御影郡家1-14-8  
営業時間:10:00~18:00 定休日:なし(年始は除く)  
駐車場:27台  
TEL:078-842-4129 <https://www.kobe-ushi.jp/shop/mikage>
- 六甲のめぐみ店**  
〒651-2204 神戸市西区押部谷町高和字性海寺山1557-1  
営業時間:9:00~16:00 定休日:なし(年末年始は除く)  
駐車場:270台  
TEL:078-992-1129 <https://www.kobe-ushi.jp/shop/megumi>